

地獄の釜のふた開く

～第46回登別地獄まつり～

8月29日(土)・30日(日)の2日間、登別温泉街で『第46回登別地獄まつり』(市、登別観光協会主催)が行われ、約4万3,000人の市民や観光客でにぎわいました。

今年は新たなイベントとして、『地獄の釜』に見立てた直径2.7mの大釜を載せたみこしを担ぎ、地獄の釜のふたが開くことを触れ回る『地獄の釜みこし』が行われたほか、特設会場に設置された地獄の釜のふたの封印を解く『地獄の釜開き』が行われ、封印を解いて釜から煙や花火とともに湯鬼神が登場すると、観光客からは大きな拍手が沸き起こりました。

このほか、メインストリート『極楽通り』では、北海自衛太鼓など各チームが打ち鳴らす壮大な太鼓の響きの『前触れ太鼓』や、重さ1トンの巨大な赤鬼みこしを100人の若者が担いで練り歩く『鬼みこし暴れねりこみ』、市民と観光客が入り混じり鬼の面をつけ地獄ばやしにのって踊る『鬼踊り大群舞』と『仮装鬼踊りコンテスト』、メインイベントの『エンマ大王山車運行』などが行われ、『ファイナル花火大会』まで、温泉街は活気に包まれていました。



▲ホテルや旅館を練り歩く『地獄の釜みこし』



▲地獄の釜の封印を解く『地獄の釜開き』

救える命があります！

～消防・救急フェスティバル in 2009～



▲水消火器体験

▼AEDと心肺蘇生の体験



9月13日(日)、ポスフル登別店で『消防・救急フェスティバル』(市主催)が行われ、買い物に訪れた親子連れなど約700人が参加しました。

このフェスティバルは、今年度の特別予算枠に設けられた『明日のまちづくり事業』の一つで、市民が消防行政により親しんでもらい、防災意識の向上や安心・安全のまちづくりにつなげてもらおうと、初めて開催されました。

1階セントラルコートでは、AEDと心肺蘇生法の体験や住宅用火災警報器の相談などが行われ、訪れた参加者は万が一に備えて、熱心に耳を傾けていました。

また、屋外駐車場では、子どもたちによる水消火器・放水体験、ロープを渡るミニレスキュー体験、消防服に着替えて消防車の乗車体験などが行われ、子どもたちはすっかり消防職員になりきっていました。

新たな子どもたちの集いの場

～青葉児童館オープン～

10月1日(木)、青葉小学校区待望の児童館が小学校の隣りにオープンしました。

木造平屋建、床面積170.1平方メートルの館内は、各種集会やボール遊び、おにごっこなど多様な目的で利用できる広々とした『プレイルーム(81.0平方メートル)』と読書やゲームなどを楽しむ『児童室(48.6平方メートル)』を備え、専任の『児童厚生員』の指導の下、児童が放課後などの時間を過ごし、遊びを通じた集団生活の場を提供します。

開館時間は、日曜日、祝日、年末年始を除く9時から17時(11月から2月は16時)で、児童や児童の団体のほか、児童の健全育成を目的とした会合などにも利用できます。



▲車いすにも対応して玄関前にはスロープを設置

▼広々としたプレイルームは多目的に使用可能

